

1. はじめに

派遣留学に関する報告も今月で最後となりました。今回は4月に行われたイベントと講義内容について今一度述べたいと思います。

2.

Toracon2018



キャンパス内の通路にて

メイド喫茶

このイベントはRITで開かれるサブカルチャーの祭典でAMV (Anime music video) やコスプレのコンテストがあったり、KAMINARI (日本の歌をアカペラで歌うクラブ) と和太鼓クラブの演奏が行われたりするイベントで、トークセッションもあるようです。伝聞系なのは、実はイベントの参加に事前登録が必要だったのですが、自分はそれをしていなかったため、結果的に自分はキャンパス内を彷徨ってコスプレしている人や何があるか確認しただけだからです。もしも、RITに留学しようと思っていてアニメも好きな人は参加する価値があるイベントだと思います。事前登録を忘れずに。

ELC party

学期終わりにELCでも最後のパーティがありました。このイベントは普通に立食パーティみたいなものだったのですが、別クラスになったELCの友人たちと最後の交流を深めることができました。夏休暇中に有馬温泉に行くサウジアラビアの友人や東京にくる予定の中国の友人もいました。

また、催し物の中で、中国人たちが中国国家を歌い始めたためか、なぜか各国で1つ歌を歌う流れになり、持ち歌なんてなかったのに、私も君が代を一人で熱唱してきました。

3. 講義

○Grad Writing & Reading

この講義ではとにかく Research Paper に焦点が当てられた講義だったと思います。ある分野の5つの論文にて、Introduction の流れや Discussion (Conclusion) のまとめ方を分析するといった実際の論文を元に学んでいく形式でした。4月の授業ではグラフを参照しながら数値を使いつつ考察を述べるというようなこともやり、1学期を通して学術論文の書き方を学ぶことが出来ました。とはいえアカデミックの論文を取り扱っていたので、単語が分からないだけでなく、全体の内容を把握するのが大変な授業でした。

○Acad Lang Analysis & accuracy

この講義では、これまでのレベルでやってきた文法の復習だけでなくパラグラフや文章全体の構成に目が向けられるようになりました。特に文と文の効果的なつなげ方について主に学んできたように思います。これまでのレベルだと文同士のつながりは **However**, ~ **Besides**, ~ のように副詞でつなげれば良かった感覚があったのですが、前置詞句や前文を要約した副詞節、名詞節を主語として用いることでよりアカデミックな文になり、かつ文章全体の流れが明瞭になることがわかりました。

○Terrorism, Intelligence & War

これともう1つの講義は RIT の授業なので、ネイティブの英語が聞ける良い機会でもありました。テロ組織やアメリカが行ってきた戦争についての内容や CIA についての講演もあり、また、討論形式の講義内容があったのですが、半分聞き取れれば良い方でトピックも難解でした。当初はアメリカが捉えるテロ観に興味がありこの授業を取ったのですが、なによりもまずアメリカの政治的仕組や歴史についてある程度把握しておく必要があったと感じています。

○History of WW2

こちらの講義は第2次世界大戦という日本に関わり深いトピックだったので、興味深いことも多くありました。ホロコースト、アウシュビッツ収容所に関する講義やヤルタ会談における米英ソの戦後の考え、とりわけ、**Bushido** というトピックは印象に残っています。沖縄での戦闘や日本にとっては戦後のソ連侵攻といったこともやり、WW2 で1つの科目になっているだけあってかなり深い内容まで取り扱っていたのではないかと思います。

話が外れますが、この講義ではろう学生が1人いたようで、毎回講師の話を通訳する人が2人交代制でついていました。ですから、改めて RIT のサポート体制に驚かされる授業でもありました。



授業風景（講義を行う講師（左奥）と通訳をするインストラクター（右奥））

○おわりに

1年間の留学を通して、多くの経験を経て様々な知見が得られたと思います。また、長期休暇毎の旅行では着実な英語能力の上達を感じられ、日々の授業ではだんだんと難易度が挙がっていくおかげで常に努力を要し初心を忘れずに交換留学生として勉学に励むことができました。これらはアメリカで出来た国際色豊かな友人たち、ELC、RITの講師の方々はもちろんですが、交換留学生として推薦していただいた竹井先生、アメリカ留学中でも気遣ってくださった留学支援課を含めた金沢工業大学関係者方の助けなしでは実現しなかったと思います。大学院生という研究優先の立場であったのにもかかわらず、この度1年間という長期の留学を体験することができ、自分の人生の中でも大変有意義な時間を過ごせました。本当にありがとうございました。